

9 仏教の可能性への探求 —真に日本的なあり方を求めて

【全1回】／開催方法：オンライン

ほ さか しゅん じ
保坂 俊司

中央大学大学院教授
比較文明学会会長



受講料 会員料金：¥3,000 早割価格：¥2,000(納入期限：9月1日)

【日程・時間】【全1回】

9月5日(土) 10:15~11:45

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

近代西洋文明への過度な依存から、唯物論的科学主義への依存が過剰に重視される現在の日本社会では、仏教の存在意義は急激に低減しているように思われます。

例えば、近代型の経済の発展は、数値で測りえる範囲での議論であり、また富の格差も格段の格差を齎し、果たして人間の幸福（満足）の重要な要素である心領域への配慮は、十分とは言えません。また、また昨今の国際情勢を鑑みるとき力というより暴力の暴走が、さらなる不和を生む負のスパイラルに陥っており、このままでは、世界はかつて経験した戦争の時代という奈落の底に落ち込みかねません。このような対立・分断や紛争の顕在化にブレーキを掛けられる思想はないのでしょうか？今回は、ある種の理想論かもしれませんが、仏教思想の中に、近代文明の負の側面を補う融和、共生の思想を見出しえるのではないかと、ということで、仏教思想が現実の社会にいかにかき入れられるか、という点を具体例を挙げて検討してみます。その一つは、サンフランシスコ講和会議におけるジャヤワルダナ師の演説とその意味です。さらには、仏教の利他主義的な発想を生かした日本の経済・経営思想の紹介です。